バタフライ

孤独な光はいつも
黄昏の窓から射していた
階段を下りるのも辛く
昇るのさえ許されず
理解されない葛藤は
左手に握り締めた十字架
滲んだ血を口に含んだら
林檎の味がした
僕は傷のついたバタフライ
風に身を任せるしかない
せめて君に届くまで
もう少し生きていたいよ
孤独な光はいつも
塞ぎ込んだ僕の心へ射していた

……高村美香